




Dell Command | Cloud Repository Manager

管理者ガイド v1.11

メモ、注意、警告

 **メモ:** 製品を使いやすくするための重要な情報を説明しています。

 **注意:** ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その危険を回避するための方法を説明しています。

 **警告:** 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

章 1: はじめに	4
プロセスの概要.....	4
クラウドベース アプリケーションである Dell Command Cloud Repository Manager へのログイン.....	4
モデルの追加.....	5
カスタム アップデート カatalogの作成および既存のものの変更.....	5
現在のカスタム カatalogでの特定コンポーネントの有効化.....	6
Dell Command Update ツールを用いたアップデートの実装.....	6
章 2: 要件	7
TechDirect ログイン認証情報.....	7
クラウドベースのアプリケーション.....	7
本番環境.....	7
言語サポート.....	8
章 3: モデルの追加と管理	9
モデルに説明的な名前を付けるための計画.....	9
モデルの追加.....	9
モデル名の変更.....	12
モデルの削除.....	12
モデル総数の [概要] ページでの表示.....	12
章 4: カatalogの作成と管理	14
新規カatalogの作成.....	14
カatalogの列の並び替え.....	16
概要でのカatalog総数の表示.....	16
カatalog定義の管理.....	17
ドラフト、テスト、本番バージョンの編集.....	18
カatalog定義の編集.....	20
ドラフト、テスト、本番状態でのサンプル ワークフロー.....	21
アーカイブの表示.....	24
章 5: カスタム カatalogのコンポーネントの有効化	26
モデルとオペレーティング システムの表示.....	26
フィルターを用いたカatalog コンポーネントの追加と除外.....	26
カatalog コンポーネントをフィルタリングして有効化するサンプル シナリオ.....	29
カatalog コンポーネントの列の並び替え.....	30
章 6: カatalogのダウンロード	31
本番カatalogのダウンロード.....	31
SHA256 ハッシュを用いたカatalogの検証.....	32
.zip ファイルの解凍および DUP のダウンロードとキャッシュ.....	32
コマンド ラインの使用.....	33
Dell Command Update ツールの使用法.....	33

はじめに

Dell Command | Cloud Repository Manager は、業界最先端のツールセットである Dell Client Command Suite の一部であり、これを用いることで Dell 商用クライアントデバイスの管理を簡易化できます。

Cloud Repository Manager はクラウドベースのアプリケーションであり、これを利用することで IT 管理者は、各自の環境内での Dell 商用クライアントシステムのアップデートに用いる必要な数のカスタム カタログやリポジトリの作成と管理が行えます。システムアップデートには、ドライバー、ファームウェア、BIOS のアップデートが含まれ、また Dell アプリケーションの一部にも該当するものがあります。エンドポイントにおいて IT 管理者は、Dell Command | Update ツールを用いてアップデートのインストールが行えます。

複数のオフィス、作業環境、タイムゾーンに分散して活動する IT チームに対して、Cloud Repository Manager は保存されたカスタム カタログの一元化されたライブラリーを提供します。IT チームはロケーションに拘束されることなくコラボレーションや共有カタログへのアクセスができ、時間と労力を節約して、アップデートプロセスの整合性を確保できます。

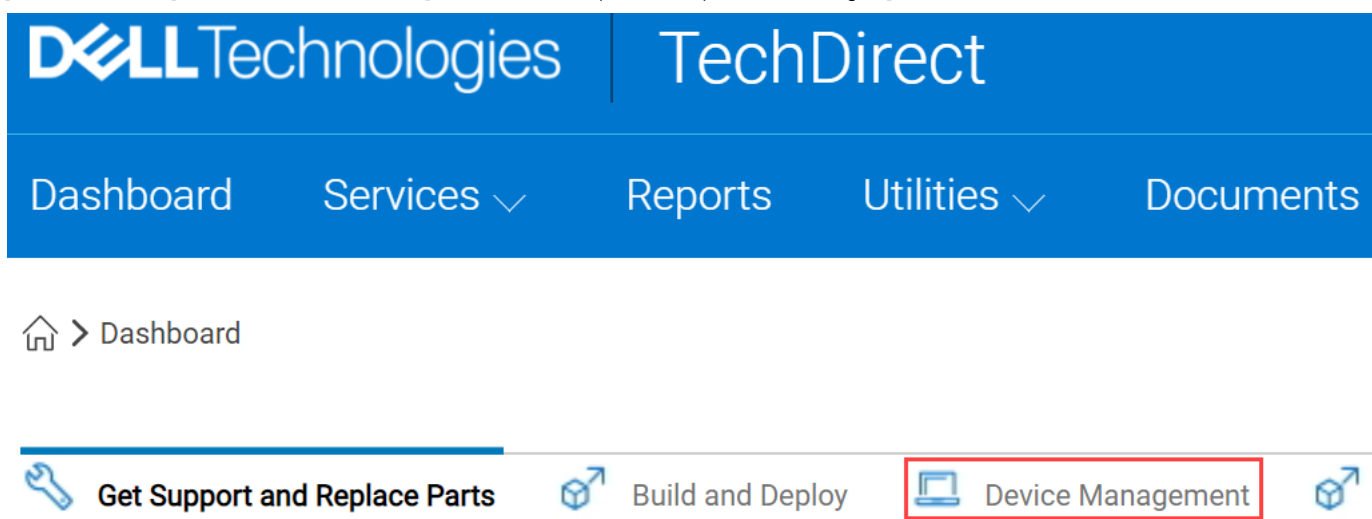
プロセスの概要

これらのプロセスと図面は、Dell Command | Cloud Repository Manager および Dell Command | Update ユーティリティーの概要を解説するためのものです。本項では、次の内容について説明します。

- [Cloud Repository Manager へのログイン](#)
- [モデルの追加](#)
- [カスタム アップデート カタログの作成および既存のものの変更](#)
- [現在のカスタム カタログでの特定コンポーネントの有効化](#)
- [Dell Command | Update ツールを用いたアップデートの実装](#)

クラウドベース アプリケーションである Dell Command | Cloud Repository Manager へのログイン

1. Cloud Repository Manager へのログインは、TechDirect ポータルから行います。
2. [**デバイス管理**] タブを選択してから、[Dell Command | Cloud Repository Manager] タイルを選択します。



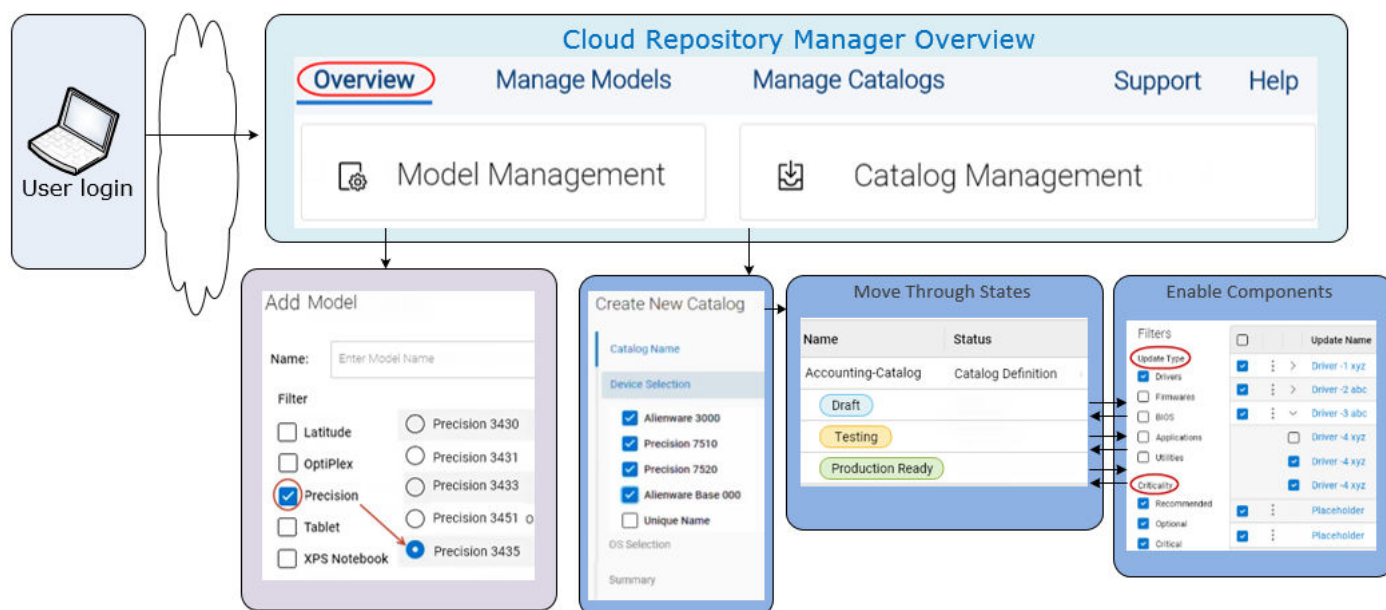
メモ: 詳細については、TechDirect のヘルプを参照してください。

3. [概要] ページで、[**モデル管理**] を選択します。

クラウドベース アプリケーションのメリット

- IT 管理者によるアクセス制御の提供ができるため、カスタム アップデート カタログに対する複数の IT 管理者のコラボレーション、表示、編集、追跡が可能です。
- カスタム アップデート カタログはクラウドに保存されるため、IT 管理者は、各種のシステムに導入する際のパッケージ化やダウンロードが簡単に行えます。

Dell Command | Cloud Repository Manager



① **メモ:** このプロセス図にあるイメージは、ユーザー インターフェイスの一部を表しています。

モデルの追加

カスタム アップデート カタログを作成する際は、事前にリポジトリに1つまたは複数の Dell モデルを追加しておく必要があります。企業内で用いられる Dell 製品のモデルは、ワークグループや部門ごとのニーズに基づいて異なっている場合があります。こうしたモデルのアップデートは、各グループのニーズごとに必要なものが異なる可能性があります。

メリット

- ユーザー インターフェイスにあるフィルター機能を用いると、より詳細な選択が行え、アップデートの優先度に関する手順を簡易化できます。
- 検索機能を用いると、Dell 製品の特定モデルを見つけることができます。
- モデルの名前については、指定時や名前変更機能を用いて一意の記述名を付けておくことで、管理が容易になります。

カスタム アップデート カタログの作成および既存のものの変更

[概要] ページで [カタログの管理] を選択することで、Dell クライアント製品群のアップデートと管理に用いるカスタム カタログを作成できます。

カタログ ウィザードで、次の手順を実行します。

- 個々のカタログごとに、一意の記述名を付けます。
- 各自のリポジトリに追加する Dell 製品のモデルを、リストから必要な数選択します。
- 該当するオペレーティング システムを選択します。

カタログ名とドラフト インスタンスが [カタログ管理] ページに追加されます。

- このカタログ定義には、Dell モデルが指定された時点で利用可能であったドライバー、BIOS、ファームウェア、Dell アプリケーションのアップデートのリストが含まれています。こうしたコンポーネントは Dell Update Packages (DUP) の形式で取得するもので、これらは特定のソフトウェア コンポーネントをアップデートするために Dell から提供されているソフトウェア ユーティリティ群です。
- ドラフト インスタンスは、カタログ定義のスナップショットです。

カタログ定義のバージョンの変換は、次の状態の間で行われます。

- ドラフトを編集して、現行アップデートに含めるドライバー、BIOS、ファームウェア、Dell アプリケーションを指定します。

- ドラフトからテスト状態に変換して、微調整を施します。
- テストの完了後、カタログを本番に変換し、アップデートをダウンロードしてカタログ内に導入します。

[カタログ管理] ページのもたらすメリット

- カスタムアップデートカタログに対してIT管理者が行うコラボレーション、編集、追跡が一元化されます。
- ユーザーへの配布前に、テスト状態をダウンロードしてアップデートの検証が行えます。
- Cloud Repository Manager で本番バージョンをアーカイブしておくことで、IT管理者は必要に応じて過去のバージョンにアクセスできます。

現在のカスタムカタログでの特定コンポーネントの有効化

ドラフト、テスト、本番の状態において、ドライバーその他のコンポーネントのリストにアクセスして、現行アップデートに追加するか除外するかの指定ができます。

メリット

- どのアップデートを実装するかを、IT管理者がコントロールできます。たとえばビデオカードのみとするなど、重大度やカテゴリのタイプに基づいた選択が可能です。
- シンクライアントデバイスのBIOS、ドライバー、ファームウェア、ソフトウェアを、常に最新のアップデートにすることができます。

Dell Command | Update ツールを用いたアップデートの実装

Dell Command | Update は、Dell クライアントシステムに適用可能なアップデートを検索してインストールするスタンドアロンアプリケーションです。Update アプリケーションは、Cloud Repository Manager で作成されたカスタムカタログファイルを読み取り、アップデートを実装します。

Update アプリケーションの用途として、ドライバーのインストール前に、個々のシステムに適したオペレーティングシステムやネットワークドライバーをインストールしておくという使用方法も可能です。

メリット

- これら2つのアプリケーションを使用することで、Dell クライアントハードウェアのBIOS、ファームウェア、ドライバー、アプリケーションのアップデートエクスペリエンスを簡易化できます。
- 導入時に必要な準備時間を短縮し、アップデートプロセス全体を高速化できます。

ツールの詳細については、『Dell Command | Update』を参照してください。

これらは Dell Command | Cloud Repository Manager に適用される要件です。

TechDirect ログイン認証情報

Cloud Repository Manager へのログインは、TechDirect ポータルから行います。

詳細については、TechDirect のヘルプを参照してください。

クラウドベースのアプリケーション

Web ブラウザー

Cloud Repository Manager は、次の環境で最適に機能します。

- Microsoft Edge Chromium
- Google Chrome
 - ① **メモ:** お使いのブラウザで cookie を受け入れる必要があります。
- Mozilla Firefox

本番環境

テスト、本番、アーカイブ カタログの特定バージョンのダウンロード、Dell.Command.Repository.Maker.exe のインストール、カスタム カタログ リポジトリのフォルダー構造の作成が行えます。ソース ファイルを downloads.dell.com から取得するのではなく、ローカルに保存する場合、これらの要件はローカル コンピューターに適用されます。

ハードウェア要件

最小限のハードウェア要件は、オペレーティングシステムの最小要件を満たしている必要があります。次に示すのは、Windows クライアント向け対応ハードウェアの詳細です。

要件	
ハードディスク	1 GB 以上の空き容量

オペレーティングシステム

Cloud Repository Manager は、次のオペレーティング システムでテストされています。

Windows オペレーティングシステム
<ul style="list-style-type: none"> • Windows 7 (32 ビットまたは 64 ビット) • Windows 8.1 (32 ビットおよび 64 ビット) • Windows 10 (32 ビットおよび 64 ビット) ① メモ: Windows 10 v2004 (May 2020 Update/20H1 以降) は 32 ビット アーキテクチャをサポートしていません。 • Windows 10 LTSC 2019 (64 ビット)

言語サポート

Cloud Repository Manager では、次の言語がサポートされています。

言語サポート	
EN - 英語	KO - 韓国語
DE - ドイツ語	PT-BR - ポルトガル語 (ブラジル)
ES - スペイン語	RU - ロシア語
FR - フランス語	ZH-CN - 簡体字中国語
IT - イタリア語	ZH-TW - 繁体字中国語
JA - 日本語	

モデルの追加と管理

企業での管理対象とする商用 Dell 製品のデバイス モデルについては、それらのリストを作成しておくことができます。後日、カスタム アップデート カタログを作成する際には、このモデル名のリストが表示されます。モデル名は、各アップデート カタログに含めるものを必要な数選択できます。

モデルに説明的な名前を付けるための計画

通常、個々の企業内では、ユーザーやユーザー グループで求められるテクニカル ニーズや要件に基づいて、各種モデルの Dell 製デバイスが使用されています。そうした場合のベスト プラクティスの1つは、モデルごとにそれらの説明的な名前を付けるよう計画して、複数の IT 管理者がこうしたモデル名からの選択でカタログ作成をできるようにしておくことです。

各モデルの名前は、最大 50 文字で一意である必要があります。たとえば次のような例があります。

- モデル名の指定では、各モデルのユーザー グループ（会計、セキュリティ、ナレッジ ワーカー、営業、社員、役員、サポート、設計チーム、IT 管理者など）に基づいた名称を付けます。
- 該当する場合は、活動地域（リモート ワーカー、フィールド従業員、リージョン1セールスなど）に基づいた名称をモデルに付けます。
- 企業で用いるモデルを新バージョンにアップグレードする場合、従来のバージョンが含まれていたカタログはアーカイブしておくことができます。ただし、古いバージョンのモデルを削除してはいけません。たとえば、Latitude モデルに会計グループというモデル名を用いていて、そのドライバーをアップデートする場合は、アーカイブ版のカタログで以前のモデルが参照されていないかを確認してください。別モデルの追加時には、名前を変更しておきます（会計グループ- アップデート後のドライバーなど）。[モデルの削除]を参照してください。

モデルの追加

個々の商用 Dell 製品ラインのモデルをエンタープライズ環境内に追加します。一度に追加できるモデルは1つだけです。

モデルを追加するには、次のように操作します。

1. Cloud Repository Manager の [概要] ページで、[モデルの管理] をクリックします。
2. [モデル] ページの右上で、[モデルの追加] をクリックします。
3. [名前] フィールドに、最大 50 文字までの一意の名前を入力します。
[モデルに記述名を付けるための計画] を参照してください。
4. [説明] フィールドに、最大 50 文字までの説明文を入力します。
5. 表示される Dell 製品のモデル数を制限するには、左側にある製品ラインのチェックボックスを必要な数使用してフィルタリングします。
6. 右側で、各自のリポジトリに含めるモデルを1つ選択します。

Add Model ✕

Name:

Description:

*Use filters or Search. Then select the Dell model to include in your repository

Filter

Latitude
 OptiPlex
 Precision
 Tablet
 XPS Notebook

- Latitude 7410
- Latitude 7414
- Latitude 7424
- Latitude 7480
- Latitude 7490
- Latitude 9410
- Latitude 9510
- Latitude 9510
- Latitude D530
- Latitude D531

- 複数のモデル間で同じ ID やドライバーが共通して使用されている場合（たとえばタワーと XL タワーなど）、これらのモデルは単一のボタンに表示されます。
- たとえば、新しいドライバーを使用してモデルがアップデートされた場合、モデルは 2 回表示されます。両方を選択します。[モデル] ページの [システム ID] 列では、モデルは ID で区別されます。Dell Command | Update ツールが適切なモデルを選択します。

メモ:

オプションとして、[検索] に特定のモデルを入力して表示されるオプションから選択することもできます。

Add Model

***Name:**

Description:

***Use filters or Search. Then select the Dell model to include in your repository**

Filter

- Latitude
- OptiPlex
- Precision
- Tablet
- XPS Notebook

- Latitude 3190 2-in-1
- Latitude 3310 2-IN-1
- Latitude 3390 2-in-1
- Latitude 5290 2-IN-1
- Latitude 5300 2-IN-1
- Latitude 5310 2-IN-1

7. 終了したら、右下の [モデルの追加] をクリックします。

正常終了を示すメッセージが [モデルの管理] ページに表示され、新しいモデル名がリストに追加されます。[モデル] ページの [システム ID] 列でモデルを識別します。

Overview **Manage Models** Manage Catalogs Support Help

✔ Your "Accounting" model was added successfully.

Models Add Model

	Name	Model	System ID	Last Modified Date	Last Modified By
⋮	Latitude Z600	Latitude Z600	02C8	Oct 23, 2020, 2:50:47 PM	
⋮	Accounting group	Latitude 7410	09CD	Oct 24, 2020, 5:29:02 AM	
⋮	IT support	Precision 7730	0832	Oct 24, 2020, 5:30:49 AM	

Models per page 10 1 - 9 of 9 Models

各モデルは、必ずしもカタログに含まれている必要はありません。将来的に使用するものを作成しておく、あるいは参照用のものを指定しておくことが可能です。何らかのカタログ内にあるモデルに関しては、このリストに含まれている必要があります。このリストからモデルを削除しようとすると、警告ダイアログが表示されます。

表示させる列の選択

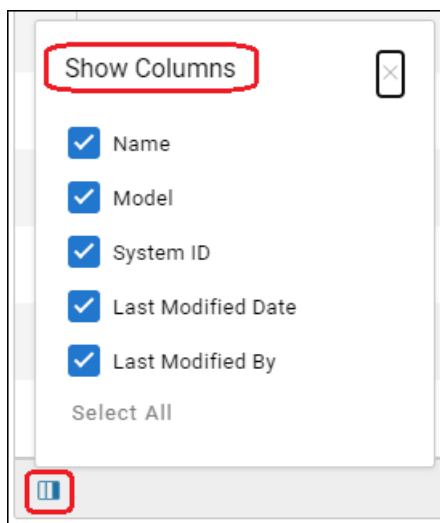
次の列を並べ替えることができます。

- [名前] - 特定のモデルのユーザー用に作成した名前
- [モデル] - ウィザードで選択した Dell 製デバイスのモデル

- [システム ID] - Dell のソース カタログで各モデルに割り当てられた ID。[モデルの追加] リストに複数回表示されているモデルの場合、それらの識別にシステム ID が役立ちます。同じシステム ID を持つ重複モデルの場合は、両方をカタログに追加して、正しいソフトウェア パッケージを取得するようにします。Dell Command | Update ツールが適切なモデルを選択します。
- [最終変更日] - 日付とタイムスタンプ
- [最終変更者] - IT 管理者のログイン名

メモ: 並び替え可能な列では、別のページに移動しても並び変えた順番は保持されます。

表示させる列の選択は、画面左下で行えます。



モデル名の変更

モデル名を変更するには、次のように操作します。

1. モデル名の左側にある [使用可能なアクション] アイコン (⋮) をクリックして、[名前変更] をクリックします。
2. 名前の変更後、[OK] をクリックします。

モデルの削除

モデルを削除するには、次のように操作します。

1. モデル名の左側にある [使用可能なアクション] アイコン (⋮) をクリックして、[削除] をクリックします。
2. 確認して、[OK] をクリックします。

メモ: [定義を編集] を選択しても、以前のバージョンのカタログで一部のモデルが参照されている場合、それらのモデルはグレー表示されます。それらをリストから削除することはできません。新しいカタログを作成し、新しいカタログからそのモデルを除外します。

削除するモデルが何らかのカタログで参照され続けている場合、そのモデルは当該カタログのすべての将来バージョンにおいて省略されることを警告するダイアログが表示されます。したがって、企業内で用いられているモデルを新バージョンにアップグレードした場合、リポジトリには別のモデルとして追加するようにします。アーカイブされたカタログが旧バージョンのモデルを依然として参照している場合、[モデル] ページからそのモデルを削除しようとするブロックされます。

モデル総数の [概要] ページでの表示

企業内で管理対象とする個々の Dell 製品ラインのリポジトリには、モデルの追加ができます。

モデルの合計数は [概要] > [モデル管理] に表示されます。

Overview



Model Management

7

Models

[MANAGE MODELS >](#)



Catalog Management

7

Catalogs

[MANAGE CATALOGS >](#)

カタログの作成と管理

[カタログの管理] ページでは、必要な数のカスタム アップデート カタログの作成および変更ができます。

アップデート カタログを作成する際は、事前にリポジトリに1つまたは複数の Dell 製デバイス モデルを追加しておく必要があります。カタログ作成時にはモデル名が表示されるので、個々のカタログに含めるモデルを特定できます。

[カタログの管理] ページにも、作成したカタログが一覧されます。各カタログ定義には、アップデート対象として選択された1つまたは複数のモデルおよびオペレーティング システムが含まれています。カタログ定義の名前にカーソルを合わせると、その説明、モデルのリスト、オペレーティング システムのリストが表示されます。

新規カタログの作成

カタログを作成するには、次の手順を実行します。

1. [概要] > [カタログ管理] で [**カタログの管理**] をクリックします。

2. [カタログの管理] ページの右上で、[**カタログの作成**] をクリックします。

ウィザードが表示されます。


3. このカタログの名前および説明を、それぞれ最大 50 文字を上限として入力します。

複数のカタログを用いる場合は、記述名を付けるための計画を検討してください。他の管理者も含めて、後日にリストから選択する際には、これらを区別できるようにしておく必要があります。例：

- 新しいドライバーを用いて既存のカタログをアップグレードする場合は、日付や会計年度あるいはドライバー名を入力しておくことで、旧バージョンのカタログとの区別ができます。
- 複数のモデルが含まれているカタログの場合は、記述名を使用してください。

特殊文字：


- NUL、<、>、:、"、/、\、|、?、*以外の Unicode 文字を使用します。
- 先頭または末尾にスペースを追加しないようにしてください。
- 末尾にピリオドを追加しないようにしてください。

 **メモ:** 無効な文字を使用すると、ダイアログが開きます。

4. [次へ] をクリックします。

5. [モデル選択] 画面で、リストにある名前を必要な数選択します。ここでのオプションは、モデル管理で追加したモデル名に基づいて表示されます。

ウィザードには、選択したモデル名の数が表示されています。選択できる最大数は 40 です。

 **メモ:** モデルの総数が 40 に近いときにカタログ作成時にエラーが発生した場合は、2つのカタログをそれぞれモデルの数を減らして作成します。

少なくとも1つのモデル名が選択されていないと [次へ] は有効になりません。

6. [次へ] をクリックします。

オペレーティング システムのリストが表示されます。

7. リストから、該当するオペレーティング システムを選択します。

Create New Catalog

- Catalog Name
- Model Selection
- OS Selection
- Summary

Step 3 | Operating System Selection

Create a catalog from your model configuration to use as a basis for configuring a set of computers that are applicable to your IT Infrastructure.

***Select OS**

- [Select all]
- Windows 7 32-bit
- Windows 7 64-bit
- Windows 8 32-bit
- Windows 8 64-bit
- Windows 8.1 32-bit
- Windows 8.1 64-bit
- Windows 10 64-Bit
- Windows 10 32-Bit

8. [次へ] をクリックします。
9. [サマリー] 画面を確認して、[**カタログの作成**] をクリックします。
 [カタログの管理] ページで、カタログが作成されたことの確認がされ、カタログ名が [名前] 列に表示されます。大きなカタログの場合、[ステータス] 列に [進行中] の表示がされます。

Overview
Manage Models
Manage Catalogs


✔ Your Catalog has been created.

Catalogs

		Name	Status	Version
⋮	>	Catalog for Latitude 2120 - 20	Catalog Definition	--
⋮	v	Catalog for Latitude 7410	Catalog Definition	--
⋮		→	In Progress	--

カタログの定義が完了すると、ドラフトインスタンスが自動的に追加されます。このドラフトは、カタログ定義のスナップショットであり、カタログ作成時点で利用可能であった最新のドライバーおよびソフトウェア コンポーネントで構成されています。

Catalogs


	Name	Status	Version
⋮	> Catalog for Latitude 2120 - 20	Catalog Definition	--
⋮	∨ Catalog for Latitude 7410	Catalog Definition	--
⋮	Draft	 Draft Ready	--

[カタログの作成エラー] ダイアログが表示された場合、通常はカタログのサイズが大きすぎます。このダイアログに、一部のモデルまたはオペレーティングシステムの削除を求めるメッセージが表示されます。2つの小さいカタログを作成してみてください。

列見出しには次のものがあります。

- 名前
- ステータス :
- バージョン (並び替え可能)
 - テストにおいて [**本番に変更**] を選択するごとに、バージョンが 1.0 から 2.0 などに増分されます。
 - 本番で [**本番を編集**] を選択した場合、バージョンは 1.0 から 1.1 のように小数部が増分されます。
- 最終変更日 (並び替え可能) - 日付とタイムスタンプが表示されます。


表示させる列の選択は、画面左下で行えます。[タイプ] 列がここに表示されます。ただし、すべてのカタログが手動で作成されているため、現在のオプションは [手動] のみです。

 **メモ:** 別のページに移動しても、並び替え可能な列はソート順を維持します。

カタログの列の並び替え

カタログのリストの列をカスタマイズすることができます。

1. 画面左下で、表示する列を選択します。
2. 必要に応じて、次の列を並び替えます。
 - 名前
 - 最終変更日 - デフォルトのソート順は最新の日付から始まるので、最後に変更されたカタログを確認できます。
 - 最終変更者

 **メモ:** 並び替え可能な列では、別のページに移動しても並び変えた順番は保持されます。

概要でのカタログ総数の表示

[カタログ管理] ページでは、各自の IT インフラストラクチャに適用可能なカスタム カタログを作成できます。カタログの合計数は、[概要] > [カタログ管理] に表示されます。

Overview

Model Management

7

Models

[MANAGE MODELS >](#)

Catalog Management

7

Catalogs

[MANAGE CATALOGS >](#)

カタログ定義の管理

[カタログの管理] ページには、作成したカスタム アップデート カタログのリストが含まれています。各カタログ定義には、アップデート対象として選択されたモデルとオペレーティング システムのリストが含まれています。個々のカタログ定義は、ドラフト、テスト、本番状態への移動ができますが、これらはカタログ定義の各種バージョンとなります。カタログ定義の名前またはその状態にカーソルを合わせると、モデルとオペレーティング システムのリストが表示されます。

カタログ定義、バージョン、タイプ

IT 管理者は、カスタム カタログの表示、編集、追跡を協同で行えます。ただし、他の IT 管理者の作業結果を上書きしないようにするには、相互の連絡が必要です。

カタログ定義の名前や、ドラフト、テスト、本番の状態を変更するには、それぞれの左側にある [使用可能なアクション] (⋮) アイコンをクリックします。



カタログ定義

カタログ定義の名前	[使用可能なアクション] ⋮
作成した各カスタム カタログの名前をリスト。 メモ: 新規のカタログごとに、1つのドラフトが自動的に作成されます。既存のドラフトは編集できます。ただし [ドラフトの作成] を選択すると、現在のドラフトは上書きされます。	<p>[アーカイブの表示] - 次のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none">[ダウンロード] - アーカイブされた本番バージョンをダウンロードできます。[表示] - カタログの以前の本番バージョンを表示できます。 <p>[ドラフトの作成] - 別のドラフト インスタンスを作成できます。各カタログ定義が保持できるドラフト インスタンスは1つだけなので、新しいドラフトを作成すると、既存のドラフトは上書きされます。</p> <p>[削除] - カタログ定義を削除できます。</p> <p>[定義の編集] - カタログ作成と同じウィザードを開き、既存の定義のサマリーを表示します。名前と説明の変更、またはモデルとオペレーティング システムの追加を行うことができます。すでに選択済みのモデルとオペレーティング システムは無効化されます。削除する場合は、新しいカタログを作成する必要があります。</p>

カタログバージョン

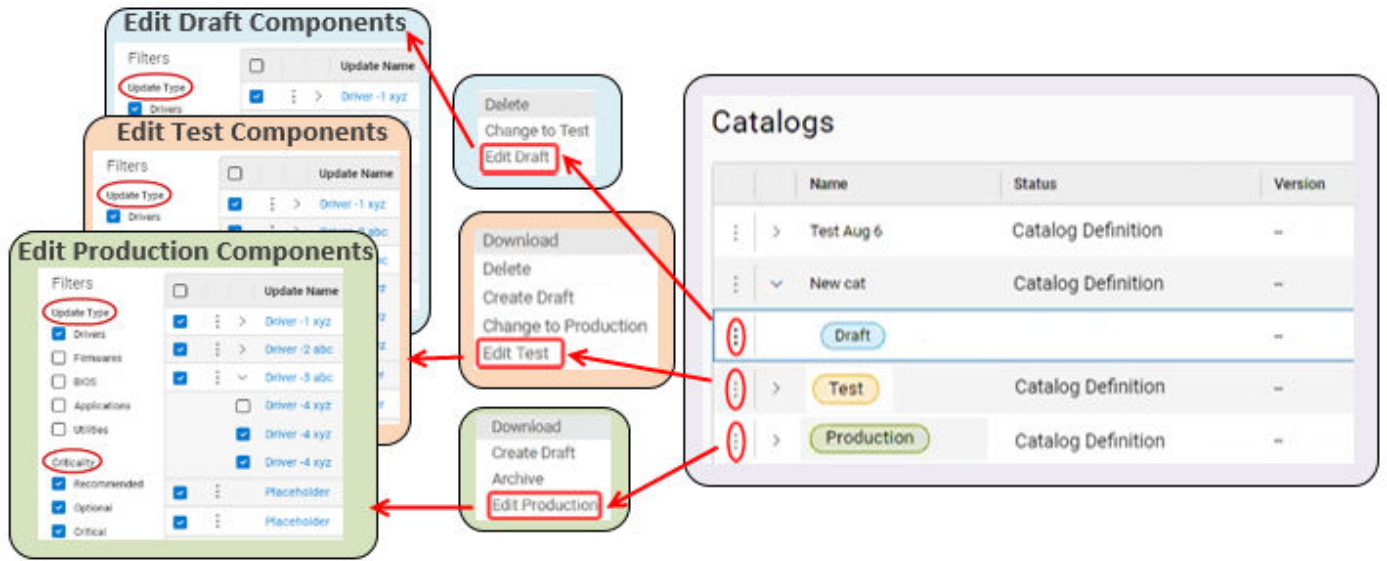
ドラフト、テスト、本番状態は、カタログ定義の各種バージョンです。[使用可能なアクション] アイコン (⋮) は、各カタログの状態ごとに異なります。同時に使用できるドラフト、テスト、本番は1つのみです。

カタログバージョン	[使用可能なアクション] ⋮
<p>[ドラフト] - カatalog作成時には、カタログ定義とドラフトインスタンスが [カタログの管理] ページに自動的に追加されます。</p> <p>[ドラフトを編集] を選択して、追加または除外するコンポーネントを特定します。次に、[テストに変更] を選択します。</p>	<p>削除</p> <p>[テストに変更] - ドラフト定義が正確な場合は、このオプションを選択します。</p> <p>[ドラフトを編集] - 「カスタムカタログのコンポーネントの有効化」を参照してください。</p>
<p>[テスト] - 定義のテスト用に当該バージョンをダウンロードすることができます。</p> <p>カタログのスナップショットを変更する必要がある場合は、次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ドラフトの作成] - 選択するには、テストが v1.9 以降で作成されている必要があります。それ以前の場合、このオプションはグレー表示され、カタログ定義から [ドラフトの作成] を選択するようにダイアログが表示されます。モデルとオペレーティングシステムのデータはそこに保存されます。 • テストを編集 <p>テストが完了したら、[本番に変更] を選択します。</p>	<p>[ダウンロードの作成] - ローカル環境でのテスト用にカタログをダウンロードすることができます。ダウンロードするには、各カタログに少なくとも1つの選択済みコンポーネントが含まれている必要があります。</p> <p>削除</p> <p>[ドラフトの作成] - オリジナルのドラフトを置き換え、テストを続行する際に、新しいドラフトを変更することができます。</p> <p>[本番に変更] - テストを本番状態に変換します。</p> <p>[テストを編集] - 追加または除外するコンポーネントを特定できます。「カスタムカタログのコンポーネントの有効化」を参照してください。</p>
<p>[本番] - 当該カタログバージョンをダウンロードして導入することができます。</p> <p>カタログのスナップショットを変更する必要がある場合は、次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ドラフトの作成] - 選択するには、本番が v1.9 以降で作成されている必要があります。それ以前の場合、このオプションはグレー表示され、カタログ定義から [ドラフトの作成] を選択するようにダイアログが表示されます。モデルとオペレーティングシステムのデータはそこに保存されます。 • 本番を編集 	<p>[ダウンロードの作成] - ローカル環境でのテスト用にカタログをダウンロードすることができます。ダウンロードするには、各カタログに少なくとも1つの選択済みコンポーネントが含まれている必要があります。</p> <p>[ドラフトの作成] - オリジナルのドラフトを置き換え、アップデートを行う必要がある場合に、新しいドラフトを変更することができます。</p> <p>[アーカイブに移動] - 「アーカイブの表示」を参照してください。</p> <p>[本番を編集] - 追加または除外するコンポーネントを指定できます。「カスタムカタログのコンポーネントの有効化」を参照してください。現在のバージョンの本番バージョンを編集することはできません。本番状態で [編集] をクリックすると、ツールは現在のバージョン (v1.0) をアーカイブし、増分バージョン (v1.1) を作成します。</p>

ドラフト、テスト、本番バージョンの編集

ドラフト、テスト、または本番バージョンの [編集] をクリックすると、コンポーネントのリストが表示されます。これらのコンポーネントは、新規カスタムカタログの作成時に、リポジトリカタログから取得されたものです。一覧されているドライバー、BIOS、ファームウェア、アプリケーションについては、追加と除外ができます。このページ変更をテストで行った場合、ドラフト

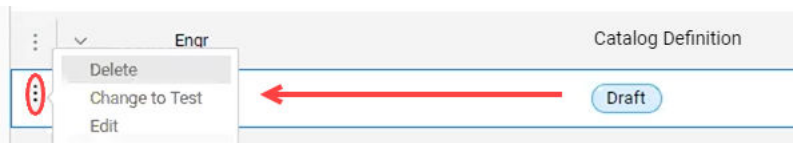
では以前の選択オプションが維持されます。



ドラフトバージョンの編集

ドラフトカタログを用いることで、他のIT管理者とのコラボレーションが行えます。ただし、ドラフトのダウンロードはできません。

1. [ドラフト]の横にある[⋮]をクリックします。
2. [ドラフトを編集]をクリックします。[カスタムカタログのコンポーネントの有効化]を参照してください。



3. コンポーネントの有効化またはクリア後に、[テストに変更]を選択します。
- ① **メモ:** [テストに変更]を選択しても、ドラフトは残ります。新しいドラフトを作成するには、カタログ定義に戻り、[ドラフトの作成]をクリックします。これにより、オリジナルが上書きされます。現在のテストは残されます。現在のテストバージョンでの操作を続行しながら、新しいドラフトに必要な変更を加えることができます。
- ① **メモ:** ドラフトの編集を複数のIT管理者で行う場合は、各自の作業結果を上書きしないよう、お互いに確認する必要があります。

テストバージョンの編集

[⋮]を用いることで、カタログをダウンロードして検証し、必要な編集を施してから、本番バージョンを作成して導入することができます。テストバージョンを編集すると、[バージョン]列が増加します。

- 本番カタログまたはアーカイブバージョンが存在しない場合、テストバージョンは1.0から開始されます。
- テストバージョンを本番に変更した場合、[本番]から[ドラフトの作成] > [テストに変更]を選択すると、メジャーテストバージョンは同じカタログの本番バージョンよりも1ポイント高くなります。
- 管理者が現在のテストバージョンを編集すると、マイナーバージョンが進行します。

完了後、[本番に変更]を選択できます。[本番カタログのダウンロード]を参照してください。

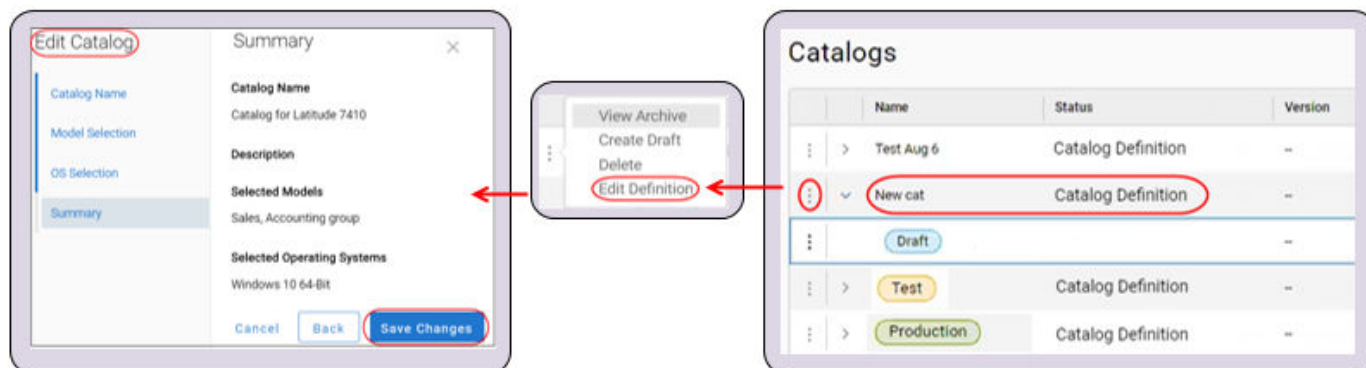


本番バージョンの編集

[:] > [本番を編集] を選択した場合は、現在の本番がアーカイブされます。本番バージョンがコピーして追加され、[バージョン] 列が増分されます。

カタログ定義の編集

既存のカタログ定義に対しては、名前と説明の変更、モデルまたはオペレーティングシステムの追加ができます。



カタログ定義のコンテンツ編集は、次のように行います。

1. カタログ定義名の横にある縦並びの点線記号 (:) をクリックします。



2. [定義の編集] をクリックします。

[サマリー] ページが開き、コンテンツが表示されます。定義の編集には、カタログの作成と同じウィザードを使用します。左側にあるオプションを選択します。次の変更ができます。

- カタログの名前または説明
- モデルの追加 - 少なくとも1つのモデル名を選択しておく必要があります。選択していない場合、[変更の保存] ボタンはグレー表示されます。
- オペレーティングシステムの追加

① メモ: カタログ定義を編集するとき、すでに選択済みのモデルとオペレーティングシステムはグレー表示されます。これらを削除することはできません。これらがカタログに必要な場合は、これらを含まない新しいカタログを作成します。

Edit Catalog

- Catalog Name
- Model Selection
- OS Selection
- Summary

Summary

Catalog Name
Catalog for Latitude 7410

Description

Selected Models
Sales, Accounting group

Selected Operating Systems
Windows 10 64-Bit

Cancel Back Save Changes

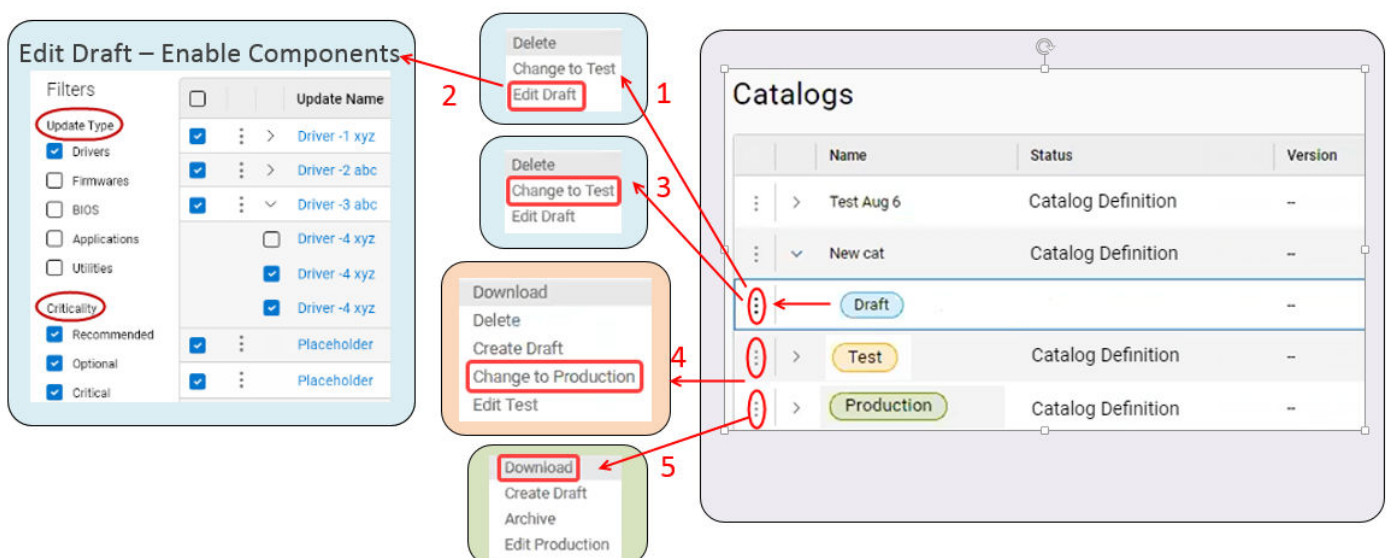
3. 完了したら、[**変更の保存**] をクリックします。
カタログ定義がアップデートされます。
4. [カタログの管理] ページで、これらの変更をドラフトにも含めたい場合は、カタログ定義の横にある [⋮] > [**ドラフトの作成**] を選択する必要があります。

ドラフト、テスト、本番状態でのサンプル ワークフロー

各カタログ定義で同時に使用できるドラフト、テスト、本番の状態は1つだけです。ドラフトおよびテストは上書きされます。本番はアーカイブに移動されます。

基本的なワークフロー

基本的なアップデート カタログでは、ドラフト状態を編集して、アップデートに用いる特定のコンポーネントを含めておきます。テスト状態に変更して、テストを実行します。次に、本番状態に変更して、ダウンロードします。

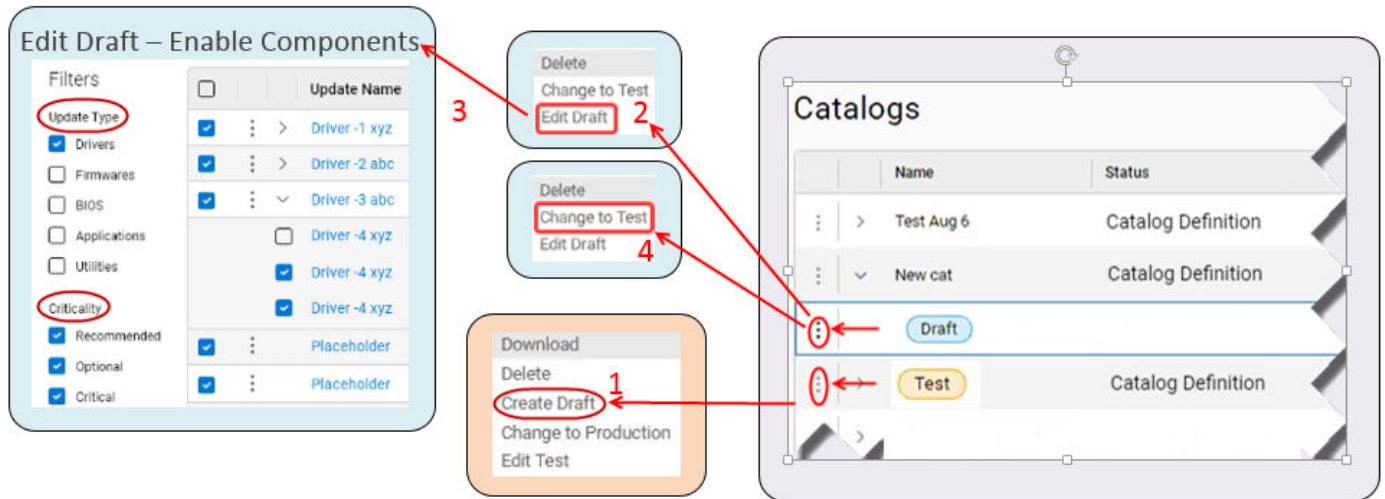


1. [**カタログ定義**] > [**ドラフト**] を選択します。
2. [⋮] から [**ドラフトを編集**] を選択します。
3. カタログに追加または除外するコンポーネントを選択します。[**カスタム カatalogのコンポーネントの有効化**] を参照してください。
4. [**ドラフト**] > [⋮] から [**テストに変更**] を選択します。
5. [**テスト**] > [⋮] から [**ダウンロードの作成**] を選択します。
6. テストが完了したら、[**本番に変更**] を選択します。
[**バージョン**] 列には、当該の本番バージョンが表示されます。
7. [**本番**] > [⋮] から [**ダウンロードの作成**] を選択します。

テスト状態の変更が必要な場合のワークフロー

テスト状態で何らかの問題が見つかった場合は、次の操作を行えます。

1. [**ドラフトの作成**] を選択して、オリジナルのドラフトを上書きします。
 ⓘ **メモ:** バージョン 1.9 では、モデルとオペレーティングシステムのデータがカタログ定義に格納されます。[**ドラフトの作成**] を選択するには、テスト状態がバージョン 1.9 以降で作成されている必要があります。このバージョンより前にテスト状態が作成された場合は、カタログ定義から新しいドラフトを作成してから、[**テストに変更**] します。
2. ドラフト状態にあるコンポーネントを編集し、テストで特定された問題に応じて、ドライバー、BIOS、ファームウェアを追加または除外します。
 ⓘ **メモ:** 既存のテスト カatalogの新しいドラフトを作成すると、現在無効または削除されたソフトウェアコンポーネントまたはドライバーの行はグレー表示されます。カーソルを合わせると、コンポーネントが無効であるというエラーメッセージが表示されます。
3. 同時にテスト バージョンでのテストを続行します。
4. 必要なすべての変更を新しいドラフトに施したら、オリジナルのテストを削除して、[**ドラフト**] > [⋮] > [**テストに変更**] を選択します。



新しいテスト バージョンを用いてテストを続行します。テストが完了したら、テストを本番に変更します。

本番バージョンの変更が必要な場合のワークフロー

現行バージョンのカタログに関しては、何らかの時点でアップデートが必要になる場合があります。たとえば、ワークグループの1つが新しいモデルにアップグレードされているかもしれません。新しいカタログを作成することもできますが、現在のカタログ

定義を編集することもできます。



1. [カタログ定義] > [⋮] で [定義を編集] をクリックします。ウィザードの [サマリー] ページが開きます。
2. [モデル選択] をクリックして、新しいモデルを選択します。
3. [変更の保存] をクリックします。

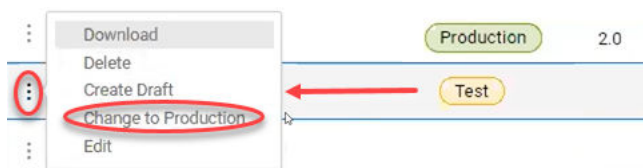
相異点に注意してください。

- 新しいカタログを作成する場合、ドラフトインスタンスが自動的に追加されます。
- 既存のカタログ定義を変更する場合、ドラフトは追加されません。これらの変更を反映させるには、ドラフトを作成する必要があります。

4. [カタログ定義] > [⋮] で [ドラフトの作成] をクリックします。

メモ: 既存の本番カタログの新しいドラフトを作成すると、現在無効または削除されたソフトウェアコンポーネントまたはドライバーの行はグレー表示されます。カーソルを合わせると、コンポーネントが無効であるというエラーメッセージが表示されます。

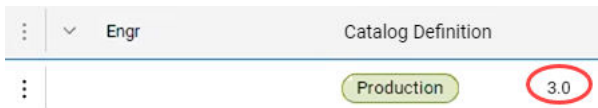
5. [ドラフト] > [⋮] で [ドラフトを編集] を選択します。
6. カタログに追加または除外するコンポーネントを選択します。[カスタムカタログのコンポーネントの有効化] を参照してください。
7. [ドラフト] > [⋮] から [テストに変更] を選択します。
8. [テスト] > [⋮] で [ダウンロードの作成] を選択して、テストを実行します。
9. テストが完了したら、[テスト] > [⋮] を選択します。
10. [本番に変更] をクリックします。



保持できる本番バージョンが1つしかないため、ダイアログが開きます。

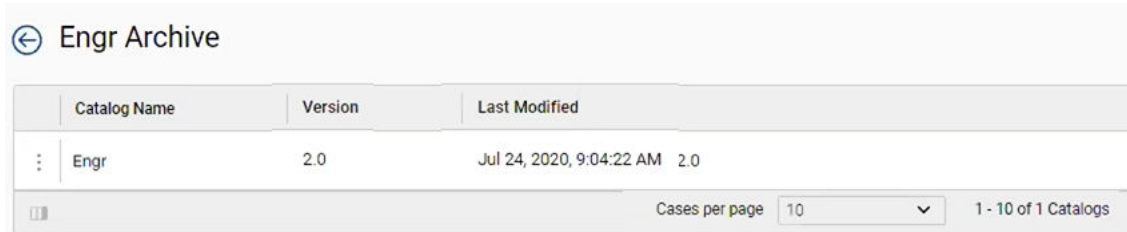


11. はい をクリックします。
本番バージョンが増分されます。



以前のバージョンは、アーカイブされます。

12. アーカイブを表示させるには、カタログ定義名に移動して [⋮] を選択します。
13. [**アーカイブの表示**] をクリックします。「[アーカイブの表示](#)」を参照してください。



14. [本番] > [⋮] から [**ダウンロードの作成**] を選択します。「[本番カタログのダウンロード](#)」を参照してください。

アーカイブの表示

アーカイブは、本番カタログの過去バージョンを最大2年間保持します。アクセス権を持つすべてのユーザーは、カタログのアーカイブバージョンを表示できます。



← Catalog for Latitude 7410 - 72 Archive

	Catalog Name	Status	Version	Last Modified
⋮	Catalog for Latitude 7410 - 72	Ready for download	4.0	Oct 23, 2020, 9:00:48 AM
⋮	Catalog for Latitude 7410 - 72	Ready for download	3.0	Oct 22, 2020, 9:31:23 PM
⋮	Catalog for Latitude 7410 - 72	Ready for download	2.0	Oct 22, 2020, 9:28:07 PM
⋮	Catalog for Latitude 7410 - 72	Download Error	1.1	Oct 22, 2020, 8:35:04 PM

⏏ Catalogs per page 10 1 - 4 of 4 Catalogs


[使用可能なアクション] アイコン (⋮) には次のものが含まれています。


- [**ダウンロード**] - 特定の本番バージョンをダウンロードできます。
- [**表示**] - カatalogの以前の本番バージョンを表示できます。

列見出しには次のものがあります。

- カタログ名
- ステータス：
 - ダウンロードの準備ができました
 - ダウンロードエラー
- バージョン (並べ替え可能)
 - テストにおいて [**本番に変更**] を選択するごとに、バージョンが 1.0 から 2.0 などに増分されます。
 - 本番で [**本番を編集**] を選択した場合、バージョンは 1.0 から 1.1 のように小数部が増分されます。

- 最終変更日（並び替え可能） - 日付とタイムスタンプが表示されます。

 **メモ:** 別のページに移動しても、並び替え可能な列はソート順を維持します。

表示させる列の選択は、画面左下 () で行えます。

 **メモ:**

このアイコンでは、[タイプ] 列も一覧表示されます。v1.11 では、すべてのカタログを手動で作成するため、[タイプ] 列にはすべてのカタログに [手動] と表示されます。今後の開発では、タイプが追加されます。したがって、デフォルトでは、この列はオプションで表示できます。

アーカイブされたカタログを削除することはできません。これらは2年後に削除されます。

カスタム カタログのコンポーネントの有効化

カタログを選択すると、当該カタログ作成時点で利用可能だったすべてのドライバー、BIOS、ファームウェア、アプリケーションがページ上に表示されます。カタログですべてのコンポーネントをアップデートさせるか、あるいは特定のコンポーネントを指定して現在のアップデートに含めるかを選択できます。

デフォルトでは、すべてのチェックボックスがオフにされています。

メモ: このページでの変更後に、変更を保存せずに別の操作に移ろうとすると、変更が破棄されることがダイアログで通知されます。

モデルとオペレーティング システムの表示

カタログ コンポーネント ページには、そのカタログ定義または状態のモデルとオペレーティング システムが一覧表示されます。モデルまたはオペレーティング システムのリストの末尾に省略記号がある場合は、[さらに表示] を選択してリスト全体を表示します。



フィルターを用いたカタログ コンポーネントの追加と除外

フィルターとチェックボックスを用いて、アップデートする特定のドライバー、BIOS、ファームウェア、アプリケーションを有効にすることができます。表示されるコンポーネントは、カタログ作成時に利用可能であったものです。

[カタログ管理] ページで、各状態での [使用可能なアクション] () アイコンを選択します。

- [ドラフト] > [ドラフトを編集]
- [テスト] > [テストを編集]
- [本番] > [本番を編集]

メモ: 現在の本番バージョンを編集することはできません。[本番を編集] をクリックすると、Cloud Repository Manager は現在のバージョン (v1.0) をアーカイブし、増分バージョン (v1.1) を作成します。

表示するチェックボックスのフィルタリング

[選択済み]、[選択解除]、[削除済み] の特定のチェック ボックスのみが表示されるようにフィルタリングできます。デフォルトでは、[選択済み] と [削除済み] がチェックされています。1つのチェックボックスまたは3つすべてを選択できます。

TestCatalog

Save Reset Back

Search

Component Display

Selected

Unselected

Removed

[削除済み] を選択した場合、これらのコンポーネントの行はグレー表示されます。[削除済み] コンポーネントは、download.xml ファイルの一部ではありません。

TestCatalog

Save Reset Back

Search

Component Display

Selected

Unselected

Removed

Update Type

Application

<input type="checkbox"/>	Name	Type	Release ID
<input checked="" type="checkbox"/>	AMD Radeon HD8490 Graphics Driver	Driver	Y8W59
<input type="checkbox"/>	AMD Radeon R Series Graphics Driver	Driver	8CF8G
<input checked="" type="checkbox"/>	AMD Radeon R Series Graphics Driver	Driver	Y234T
<input type="checkbox"/>	AMD Radeon R Series Graphics Driver	Driver	W41X6

チェック ボックスを変更しても、変更が同期されていない場合は、[コンポーネントの表示] の横に次のように表示されます。



- 黄色の三角形のアイコンにカーソルを合わせると、表示が同期されていないことを示すテキストが表示されます。
- [更新] ボタン - クリックして表示を更新します。

たとえば、[選択済み] をオフにしても、選択したチェック ボックスが引き続き表示される場合は、[更新] ボタンをクリックします。

TestCatalog5 6.30

Save Reset Back

Search


Component Display  

Selected

Unselected

Removed

<input type="checkbox"/>	Name
<input type="checkbox"/>	Dell Client Configuration Toolkit Application
<input type="checkbox"/>	Dell Client Configuration Toolkit Application
<input checked="" type="checkbox"/>	Dell Client System Update Application

 **メモ:** 変更を破棄するには、[戻る] をクリックします。

アップデート タイプでのフィルター

1. 左側の [アップデート タイプ] リストを展開します。
2. 必要な数のチェック ボックスを選択します。

これらのアイテムは表中に表示されます。

1 catalog

Save Reset Back

Search

Update Type

- Application
- BIOS
- Driver
- Firmware
- Utility

Criticality

- Optional
- Recommended
- Security
- Urgent

<input type="checkbox"/>	Name	Type	Release ID	Version	Criticality	Release Date	Size
<input checked="" type="checkbox"/>	Dell Command Update	Application	X79N4	2.3.1	Recommended	Nov 4, 2020	100.45 MB
<input checked="" type="checkbox"/>	Dell Command Update Application	Application	68GJ6	3.1.2	Recommended	Nov 4, 2020	21.48 MB
<input checked="" type="checkbox"/>	Dell Command Update Application for Windows 10	Application	34T96	3.1.2	Recommended	Nov 4, 2020	23.26 MB
<input checked="" type="checkbox"/>	Dell Command Update Application for Windows 10	Application	Y2PJJ	3.1.1	Security	Nov 4, 2020	23.22 MB

- 名前の横にあるメインのトグル ボタンをクリックするとすべてのチェックボックスを選択できますが、特定のオプションの横にあるチェックボックスを個別にクリックすることもできます。たとえば、古いドライバーは無効にして新しいドライバーの方を有効にする、ということが可能です。

メモ: ダイアログに「Bad Request」と表示されている場合は、[リセット]を選択し、個々のコンポーネントを選択またはクリアします。

- 完了したら、左上にある[保存]をクリックします。

システムの保存中に、スピナーが表示されます。

メモ: コンポーネントを選択しない場合は、次のダイアログが表示されます：「You have not selected any software components. Do you wish to continue saving?」

- 保存の確認ダイアログで[OK]をクリックします。

このバージョンのカタログを導入すると、[名前]列で選択したオプションのみが、Update ツールによってアップデートされます。

重大度によるフィルター

左側で、必要な数の重大度オプションを選択します。[重大度]列では、ラベルが色分けされています。

リストをフィルタリングすると、オプションをグループ化できます。重要な項目のみをアップデートしたい場合は、該当するチェックボックスのみを選択します。

重大度オプション	説明
セキュリティ (ピンク)	セキュリティを強化または提供するアップデート。
重要 (ピンク)	システムの信頼性、セキュリティ、可用性の向上において重要なアップデート。
推奨 (黄)	システムへのインストールが推奨されるアップデート。
オプション (青)	任意のアップデート。

カタログ コンポーネントをフィルタリングして有効化するサンプルシナリオ

これらのシナリオは、カタログ コンポーネントをフィルタリングして有効化する例を示しています。

リストにあるコンポーネントをすべて有効にするシナリオ

すべてのアップデートを選択するには、上部にあるメイン トグルを選択します。



一部のコンポーネントのチェック ボックスをオフにするシナリオ

各自のカスタム アップデート カタログにおいて除外するコンポーネントのチェック ボックスをオフにします。

依存関係のあるドライバーを選択解除すると、警告アイコン ⚠️ とダイアログが表示されます。

	Update Name	Criticality	Update Type	Version	Category Type	Release Date
<input checked="" type="checkbox"/>	Driver -1 xyz	Critical	Hardware Drivers	2.0	Chipset	Jan 13, 2020
<input checked="" type="checkbox"/>	Driver -2 abc	Recommended	Application Software	4.0	Video	Jan 13, 2020
<input type="checkbox"/>	Driver -3 abc	Critical	BIOS Updates	3.0	Input	Jan 13, 2020
<input type="checkbox"/>	Driver -4 xyz	Recommended	Firmware Updates	1.0	Storage	Jan 13, 2020
<input type="checkbox"/>	Driver -4 xyz	Recommended	Firmware Updates	1.0	Storage	Jan 13, 2020
<input checked="" type="checkbox"/>	Driver -4 xyz	Recommended	Firmware Updates	1.0	Storage	Jan 13, 2020
<input checked="" type="checkbox"/>	Driver -4 xyz	Recommended	Firmware Updates	1.0	Storage	Jan 13, 2020
<input checked="" type="checkbox"/>	Driver -4 xyz	Recommended	Firmware Updates	1.0	Storage	Jan 13, 2020
<input checked="" type="checkbox"/>	Driver -4 xyz	Recommended	Firmware Updates	1.0	Storage	Jan 13, 2020

緊急アップデートのみを有効化するシナリオ

たとえば緊急アップデートのみを有効化するには、次のようにします。

1. [名前] の横にあるテーブル見出しで、チェック ボックスをオフにします。

すべてのチェック ボックスがオフにされます。

2. [フィルター] > [重大度] で、[緊急] を選択します。

3. [名前] の横にあるテーブル見出しで、チェック ボックスをオンにして、緊急とされたすべてのドライバーをアップデートするようになります。

① **メモ:** この操作の終了後、緊急のチェック ボックスをオフにしても、他のすべてのドライバーとオプションも表示されますが、有効になるのは緊急の項目のみです。

Name	Type	Release ID	Version	Criticality	Release Date	Size
<input checked="" type="checkbox"/> Dell Latitude 3400 and 3500 System BIOS	BIOS	4K2FK	1.2.1	Urgent	Sep 23, 2020	8.14 MB
<input checked="" type="checkbox"/> Dell Latitude 3400 and 3500 System BIOS	BIOS	C4FGW	1.7.1	Urgent	Sep 23, 2020	15.58 MB
<input checked="" type="checkbox"/> Dell Latitude 3400 and 3500 System BIOS	BIOS	63G39	1.3.1	Urgent	Sep 23, 2020	8.19 MB
<input checked="" type="checkbox"/> Dell Latitude 3400 and 3500 System BIOS	BIOS	Y59GW	1.4.2	Urgent	Sep 23, 2020	14.11 MB
<input checked="" type="checkbox"/> Dell Latitude 3400 and 3500 System BIOS	BIOS	D01V1	1.6.0	Urgent	Sep 23, 2020	15.57 MB
<input checked="" type="checkbox"/> Qualcomm QCA61x4A/QCA9377 WiFi and Bluetooth Driver	Driver	4747J	12.0.0.916	Urgent	Sep 23, 2020	103.16 MB
<input checked="" type="checkbox"/> Intel AX200/AX201/9260/9560/9462 WiFi UWD Driver	Driver	C2CN8	21.50.1.1	Urgent	Sep 23, 2020	57.73 MB

24 Components

ビデオカードのアップデートのみを有効化するシナリオ

- [名前]の横にあるテーブル見出しで、チェックボックスをオフにします。
すべてのチェックボックスがオフにされます。
 - [フィルター] > [デバイスカテゴリー]で、[ビデオカード]を選択します。
 - ビデオカード関連の緊急とされたアップデートのみが必要な場合は、[重大度] > [緊急]を選択します。
 - [名前]の横にあるテーブル見出しで、チェックボックスをオンにして、フィルタリングした結果のビデオカードのアップデートをすべて実施するようにします。
- メモ:** この操作の終了後、ビデオカードおよび緊急のチェックボックスをオフにしても、他のドライバーとオプションも表示されますが、有効になるのはビデオカードと緊急の項目のみです。

カタログコンポーネントの列の並び替え

コンポーネントの列をカスタマイズすることができます。

- 画面左下で、表示する列を選択します。
- 必要に応じて、次の列を並び替えます。
 - 名前
 - タイプ
 - リリースID
 - 重要度
 - リリース日

メモ: 並び替え可能な列では、別のページに移動しても並び変えた順番は保持されます。

カタログのダウンロード

カタログのダウンロードは、テストまたは本番バージョンからだけでなく、アーカイブされた本番バージョンからも行えます。

本番カタログのダウンロード

テストの完了後、アップデートのローカルインストールが可能な場所に、カタログの本番バージョンをダウンロードします。

ここでは、本番カタログのダウンロード手順について説明します。ダウンロードの手順は、テストとアーカイブ済みカタログとで大部分が共通しています。

本番カタログをダウンロードするには、次のように操作します。

1. 本番カタログで [⋮] を選択し、[**ダウンロードの作成**] をクリックします。



2. [ステータス] 列が [**ダウンロードを作成中**] から [**ダウンロード準備完了**] に移行しますが、カタログのサイズによっては時間がかかる場合があります。

<input type="checkbox"/>		Name	Status	Version
<input type="checkbox"/>	⋮	Accounting-Catalog		--
	⋮	Draft		--
	⋮	Testing	Creating Download...	--
	⋮	Production Ready	Create Download	1.0
<input type="checkbox"/>	⋮	Developer-Catalog		
<input checked="" type="checkbox"/>	1			

3. [⋮] から [**ダウンロードの作成**] を選択します。
[**カタログのダウンロード**] ダイアログが表示されます。またこのダイアログには、ダウンロード完了後のカタログ検証に使用可能な Checksum 値も表示されます。
4. 右下にある [**カタログのダウンロード**] をクリックします。
.zip ファイルには GUID 値が割り当てられており、ステータス バーにはダウンロードの進行状況が示されます。



Cloud Repository Manager により .zip ファイルのローカルコピーがダウンロードされます。

メモ: この操作において、アップデートはダウンロードされません。このファイルは、当該カタログ用に有効化された Dell Update Packages (DUP) への単なる参照であるため、サイズもそれほど大きくはありません。

5. オプションとして、**ダウンロードした.zip に対する SHA を用いた検証**をします。
6. **.zip ファイルを解凍**します。

SHA256 ハッシュを用いたカタログの検証

オプションとして、ダウンロード完了後に [カタログのダウンロード] ダイアログにある SHA チェックサム値を用いた、カタログの検証が行えます。

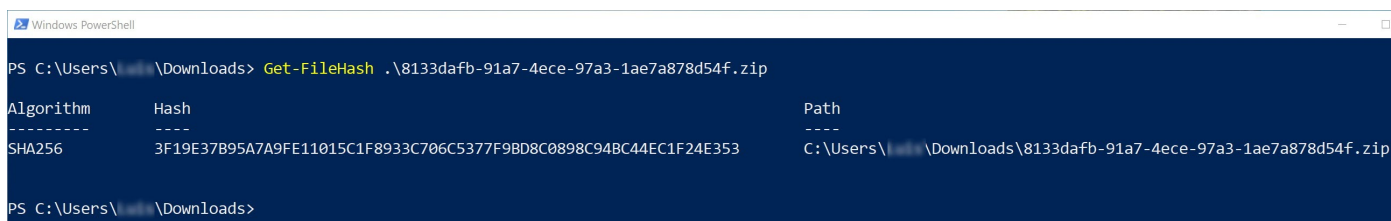
1. Windows PowerShell を起動します。
2. Cloud Repository Manager からダウンロードした.zip ファイルの置かれたフォルダーに移動します。
3. ファイルの SHA256 ハッシュを確認するには、次のコマンドの<.zip>部を各自の.zip ファイルの名前に置き換えたものを入力して<Enter>を押します。

```
Get-FileHash <.zip>
```

4. この結果の確認は、[ダウンロード] のクリック時に [カタログのダウンロード] ダイアログの下部に表示されるハッシュ値との照合で行います。

出力値が一致した場合、ファイルは信頼でき破損していません。

たとえば次の図にある 3F19E37B95A7A9FE11015C1F8933C706C5377F9BD8C0898C94BC44EC1F24E353 は Get-FileHash コマンド実行後に得られるチェックサムの結果です。



```
PS C:\Users\<user>\Downloads> Get-FileHash .\8133dafb-91a7-4ece-97a3-1ae7a878d54f.zip

Algorithm      Hash
-----
SHA256         3F19E37B95A7A9FE11015C1F8933C706C5377F9BD8C0898C94BC44EC1F24E353
Path
-----
C:\Users\<user>\Downloads\8133dafb-91a7-4ece-97a3-1ae7a878d54f.zip

PS C:\Users\<user>\Downloads>
```

この値は、[ダウンロード] のクリック時に [カタログのダウンロード] ダイアログの下部に表示されるハッシュ値と一致しています。

.zip ファイルの解凍および DUP のダウンロードとキャッシュ

1. ローカルのインストール位置に.zip ファイルを解凍します。
.zip ファイルには、次のものが含まれています。
 - <カタログ名>.xml - Dell Update Packages (DUP) のリファレンスで、当該アップデートに対して有効にしたもの。
 - **Dell.Command.Repository.Maker.exe** - <カタログ名>.xml ファイルを読み取った後、DUP をダウンロードしてキャッシュする.exe ファイル。
 - その後、この.exe ファイルのあるフォルダー位置に DUP をダウンロードしてキャッシュし、ディレクトリー構造を作成します。
 - オプションとして、DUP をダウンロードしてキャッシュするターゲットフォルダーを変更できますが、その場合は.exe の実行前にフォルダーを作成しておく必要があります。「[コマンドラインの使用](#)」を参照してください。

① メモ: Dell.Command.Repository.Maker.exe が必要なのは、ソース ファイルをローカルにダウンロードしてホストし、リポジトリーの場所を変更したい場合だけです。

① メモ: 同じカタログのアップデートを定期的に行う場合、Cloud Repository Manager は、対象のダウンロード ディレクトリーで既存のコンポーネントのインストーラーがあるか確認し、すでに存在する場合はダウンロードを無視します。オプションとして、コマンドライン スイッチを使用してダウンロードを強制的に実行することができます。

 - README.txt ファイル
2. コマンド プロンプトで、次のオプションを付けて **Dell.Command.Repository.Maker.exe** を実行すると、カスタム リポジトリーフォルダーを作成できます。
 - **-c** コマンドでは.xml ファイルを指定します。
 - ① メモ:** カタログ ファイルの指定がない場合、現在のフォルダー中で<カタログ名>.xml が検索されます。
 - **-t** パラメーターではダウンロードのターゲット フォルダーを指定します。フォルダーは.exe の実行前に作成しておく必要があります。
 - ① メモ:** このオプションの指定がない場合、Dell.Command.Repository.Maker.exe の位置がデフォルトで選択されます。

その後、<カタログ名>.xml ファイルが読み取られ、コマンドラインでの指定位置に `downloads.dell.com` から DUP がダウンロードされてキャッシュされます。

コマンドラインの使用

コマンドライン リファレンス

この表には `Dell.Command.Repository.Maker.exe` で用いる引数が一覧してあります。

引数	説明
<code>-? -h --help</code>	ヘルプ情報を表示します。
<code>-c --catalog <ファイル></code>	使用するカタログ ファイルを指定します。例： <code>-c "catalog.xml"</code>
<code>-t --target <パス></code>	ダウンロードのターゲット パスを指定します。例： <code>-t "C:\myDirectory\"</code>
<code>-b --baseLocation <パス></code>	カタログ ファイルの <code>baseLocation</code> を新規に指定します。例： <code>-b "\\foo\stuff\catalogs"</code>
<code>-f</code>	ソフトウェア コンポーネントのインストーラーがすでに存在し、ダウンロードが無視された場合、これを使用して強制ダウンロードを指定します。

ベース ロケーションとターゲットの変更


ワードパッドで<カタログ名>.xml ファイルを開くと、デフォルトの `baseLocation` は `downloads.dell.com` とされています。

デフォルトを変更するには、次の手順を実行します。

- ターゲット パスの変更を予定している場合は、`.exe` の実行前にフォルダーを作成しておく必要があります。
 - ターゲット フォルダーを `.zip` ファイルの解凍位置に追加して名前を付けます。
- コマンド プロンプトで `Dell.Command.Repository.Maker.exe` を実行しますが、その際に `-c` コマンドを用いて.xml ファイルを指定し、`-t` コマンドを用いてディレクトリーを指定します。
- `-b` コマンド スイッチを用いて、<カタログ名>.xml ファイルの `baseLocation` を新規に指定します。
新しい<カタログ名>.xml ファイルが、変更された `baseLocation` エントリーを用いて作成されます。以前のファイルは<カタログ名>.xml.orig に名前が変更されます。
- 新しい `catalog.xml` 名を用いて `Dell.Command.Repository.Maker.exe -c catalog.xml` を実行します。
作成したフォルダーには、`downloads.dell.com` から取得するコンテンツが取り込まれます。

Dell Command | Update ツールの使用法

手順の完了後、Dell Command | Update ツールでのソース位置を更新し、アップデートのローカル デバイスでの展開用に、ダウンロードした DUP の位置を指定します。詳細に関しては、『[Dell Command | Update ユーザーズ ガイド](#)』を参照してください。

 **メモ:** Dell Command | Update によりカタログ内のファイルが読み取られ、アップデートが実装されます。